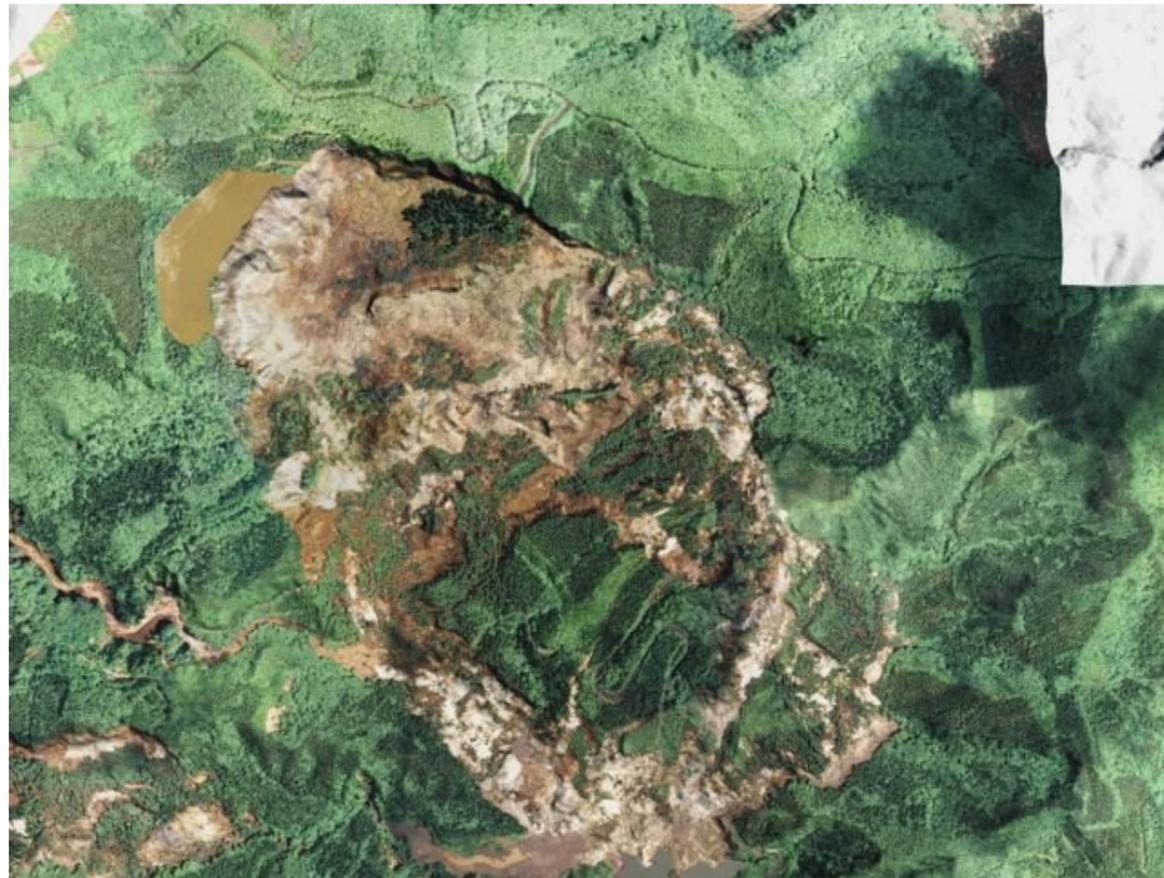
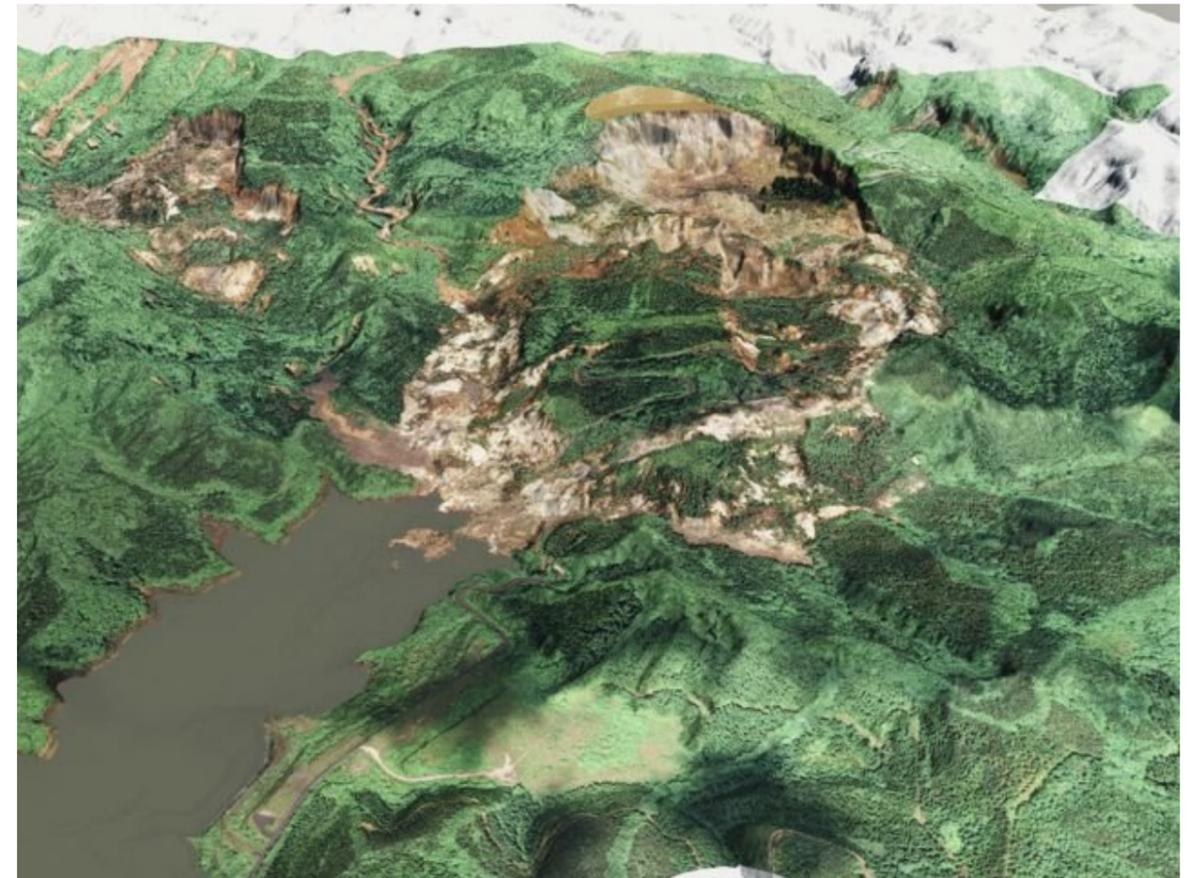


## 2.3 排土工施工後の景観変化



現計画のイメージ図(1)



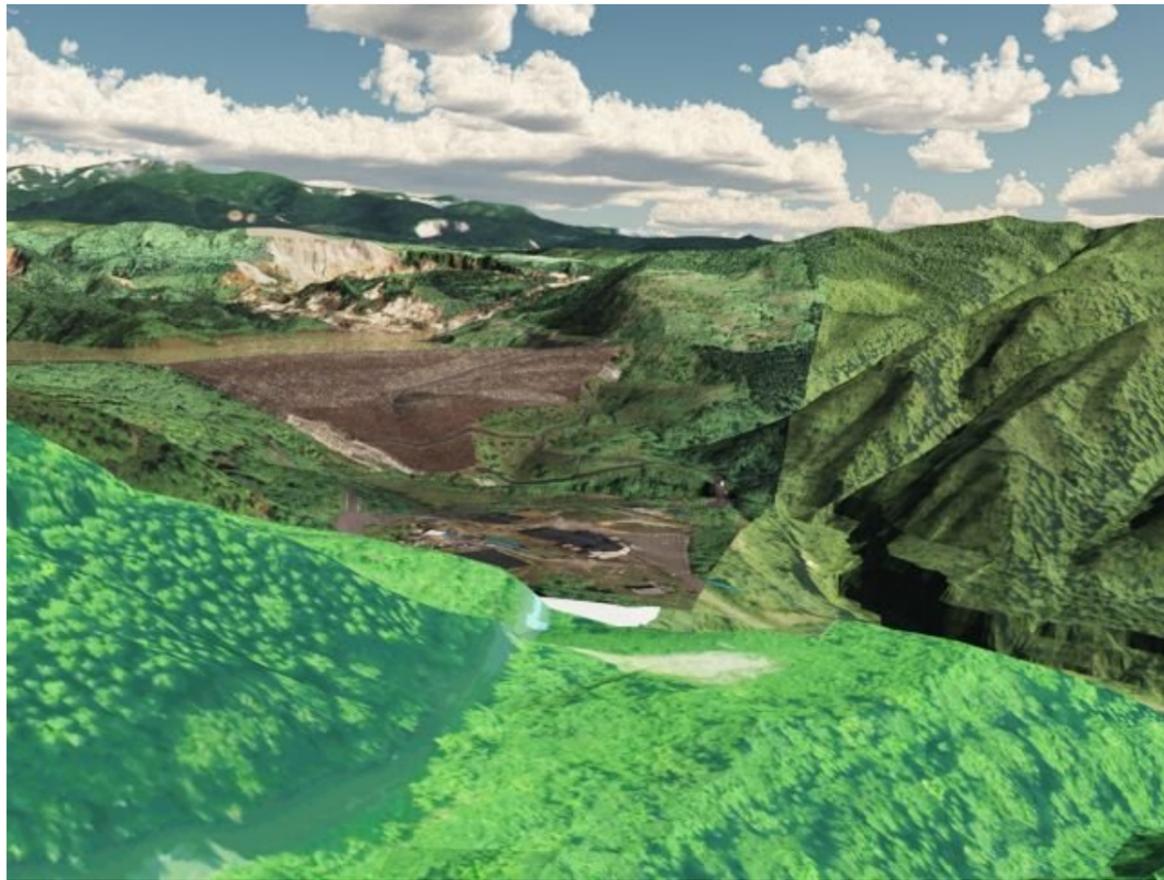
現計画のイメージ図(2)



荒砥沢ダム堤体より



荒砥沢ダム管理事務所付近より



対岸より地すべり地を望む



地内に残留した市道終点付近より



崩落した市道より滑落崖を望む



崩落した市道より滑落崖を望む

## 2.4 今後の危険度評価手法および危険度マップの作成について

危険箇所抽出図の作成

落石発生源（節理が発達した岩塊）



柱状節理が発達した溶結凝灰岩



縦のクラックが発達する軽石凝灰岩

落石発生源（浮石・転石）



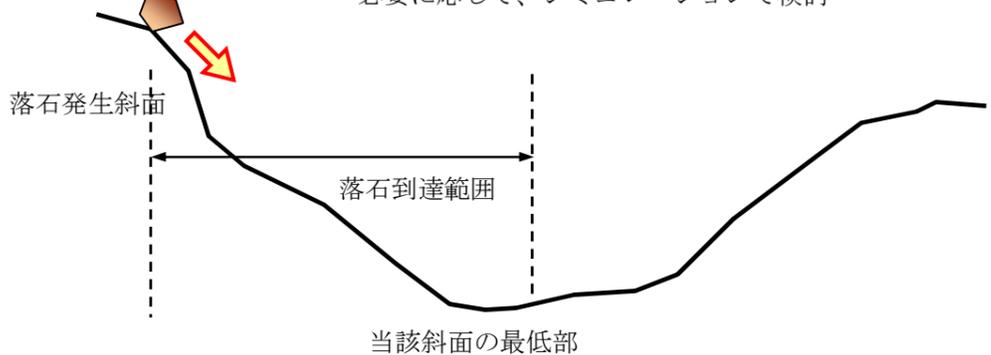
侵食により斜面から浮き出した石



斜面内で止まり、再移動のおそれがある転石

落石到達範囲

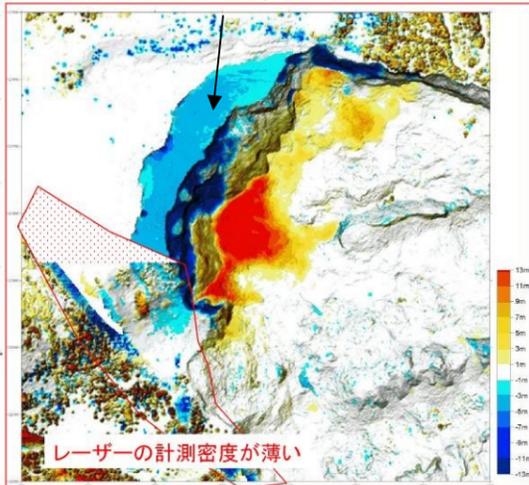
- ・ 落石の到達範囲は、当該斜面の最低部付近として推定（経験的予測による推定）
- ・ 必要に応じて、シミュレーションで検討



崩壊危険箇所

- ・ 現地調査による危険箇所の抽出
- ・ 安定解析による危険斜面（傾斜）抽出

冠頭部拡大亀裂の内側  
沈下が認められる範囲



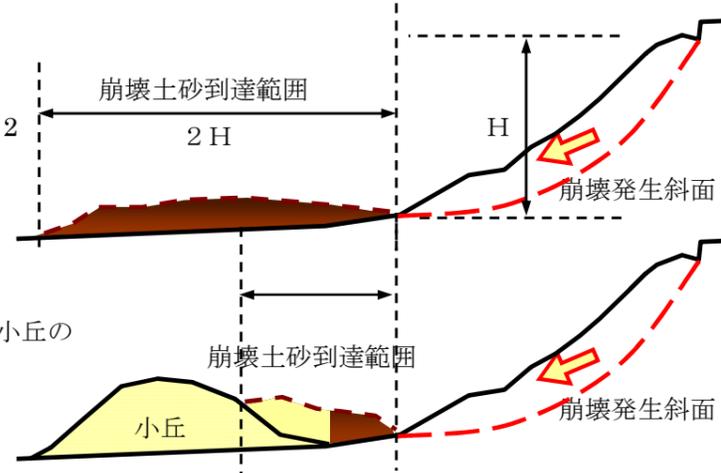
変形が少ない移動体の縁に連続する拡大亀裂



第三陥没帯右岸側の残存土塊

崩壊土砂到達範囲

- ・ 崩壊斜面の高さ (H) × 2 として推定
- ・ 小丘などがある場合は、小丘の縁付近までとして推定



- ・ 冠頭部の拡大崩壊については、不連続変形法による到達範囲の予測を行う
- ・ 現時点では昨年と大きな変状は見られないが、豪雨時などに単独で滑動するような地すべりが現れるかモニタリングしていく必要がある
- ・ 地表付近の侵食・風化が著しいため、今後の地形変化をモニタリングしたうえで、崩壊土砂の到達範囲についても調査を進める必要がある